

会 議 録

会議の名称	令和4年度第8回富士見市社会教育委員会議
開催日時	令和5年3月6日(月)午後7時00分～8時30分
開催場所	中央図書館 視聴覚ホール
出席者	古澤立巳議長、佐々木眞理子副議長、荒川照子委員、京谷恵子委員、吉田徹子委員、蘇武伸吾委員、渡邊知広委員、吉田和江委員、事務局
欠席者	内海幸一郎委員、富士伸委員
公開・非公開	公開(傍聴人 0人)
会議次第	1 議長あいさつ 2 生涯学習課より報告 3 協議事項 4 その他
会議資料	・定期刊行物 ・資料1「令和5年度社会教育関係団体に対する補助金の交付について」 ・資料2「提言書(案)」
会議録確認	古澤立巳議長

会議内容

1 議長あいさつ

【議長】 今年度第8回目の開催となる。委員のみなさんのご協力のお陰で、提言書も形が見えてきた。33期は今日を入れてあと3回しかないため、進行が駆け足になってしまうかもしれないが、引き続き活発にご意見等出して頂ければと思う。ご協力をお願いしたい。また、みなさんから事前にご提出いただいた具体的な取組案について、後ほど簡単にご説明いただければ。みなさんのご意見を参考に、最終的に提言書に載せる取組案を考えていきたいと考えている。この場で決めるのではなく、次回会議でまとめた結果をお示しさせていただく予定。また今日は本題に入る前に、次年度の社会教育関係団体に対する補助金の交付について、事務局より説明がある。今日は内容が多岐にわたるが、よろしくをお願いしたい。

2 生涯学習課からの報告

【議長】 まずは令和5年度社会教育関係団体に対する補助金の交付について確認する。事務局から説明を。

【事務局】 社会教育法第13条の規定により、令和5年度に交付を予定している社会教育関係団体への補助金について、社会教育委員のみなさんのご意見を伺いたい。補助金の定義と交付基準については資料に記載したとおり。令和5年度について、今のところ14の団体を予定している。

【議長】 青少年相談員協議会について、富士見市では何人くらいの方が活動しているのか。

【事務局】 13名の方にご登録いただいている。相談員には年齢制限があり、18歳から39歳までの方にご登録いただいている。

【議長】 若い世代である相談員の中で、こういった審議会に出ていただけるような方はいらっしゃるか。

【事務局】 現状相談員の8割が市役所職員であり、審議会への参加は難しいと考える。

【議長】 青少年育成市民会議について、市民会議という大きな母体があって、そこに地区の団体が入っているという組織なのか。

【事務局】 加盟団体という形で、町会長連合会などに団体会員として参加していただいている。

【委員】 市民会議は寄付も募集していなかったか。

【事務局】 賛助会員の募集ということで、広報「富士見」と一緒にチラシと封筒を配布し、賛助会費をいただいている。市民会議は地域ごとに分かれた4つの支部と、3つの部会から成り立っている。各支部や各部会で様々な事業を行っており、会員の方からいただく会費等や補助金、両方を活用している。

【議長】 市民会議について、当初は非行防止が活動の中の大きな柱だったが、ここ10年、20年で活動の方向性が変わり、青少年の健全育成に活動が広がっている。令和5年度交付予定の補助金で新規のものや、令和5年

度から廃止になった補助金はあるのか。

【事務局】 新規のものはない。また廃止されたものもない。

【議長】 他に質問等あるか。もし今後疑問点等出てきた場合は、事務局までご連絡いただきたい。

3 協議事項

【議長】 それでは続いて「提言書(案)」の確認を行う。「1 はじめに」から「4 提案」まで、前回の会議でいただいたご意見を受け、一部修正を行った。まずは修正部分の確認から行っていきたい。では事務局から説明を。

【事務局】 「1 はじめに」については、前回特にご指摘が無かったので、変更はない。「2 富士見市の現状」について、1行目の終わりから2行目にかけて、文言が分かりにくいというご指摘をいただいたので、修正した。また4ページ目の円グラフの上の、「令和2年に～」から始まる段落の、上から3行目「中でも～」以降の文について、「わからない」と回答する人が多いということも問題であり、それを明文化したほうがいい、というご指摘を受け、追加した。また円グラフ下にあった文章について、ご指摘を受け、削除した。

【議長】 ここまでの部分で、なにかご意見はあるか。

【委員】 特になし

【議長】 また何かあれば随時ご意見をいただければ。では次の部分について、説明を。

【事務局】 「3 「つながり」の大切さについて」の部分は、前回までは2つの観点から必要性をまとめていたが、「居場所づくり」の観点も必要では、というご指摘を受け、つながりの重要性について、3つの観点から整理し直した。「3-2 世代をこえる重要性」については、新しく追加した。世代をこえる意味が述べられていないのではないかと、というご指摘をいただいていたため、追加した。これまで委員のみなさんよりいただいたご意見から、2つの観点から整理した。それぞれ「①多様性のある「つながり」のため」、「②未来に向けた「つながり」のため」としたが、この文言が適切かは、未だ判断に迷っている。特に「多様性」は、他に適切な文言があれば変更したいと考えている。

【委員】 「多様性」という言葉を使ってしまうと、せっかく「世代間」と焦点を当てているのに、ぶれてしまうのではないかと考える。世代によって価値観や文化、生活に違いがあり、世代間ギャップがあるために、上手く接合できていないということを取り上げるのがよいのではないかと。多様性と言ってしまうと、それなら同じ世代の中でもよいのではないかと、とも考えられる。「多様性」も間違いではないが、世代間の格差やギャップというような言葉の方が良いのではないかと。

【委員】 「①多様性のある「つながり」のため」の上から2行目、「同じ世代であっても～」の一文は削除した方がよいのではないかと。世代をこえた、という部分に焦点をあてた記述にした方がよいのではないかと。また今委員が仰った、「ギャップ」という言葉が胸に響いた。世代間でももちろん価値

観も違うだろうし、みんながそれぞれ気持ちの面でギャップを感じているということはあると思う。「ギャップ」という言葉がここでうまく使えないだろうか。他の世代となかなか交流できないというのは、価値観が違うからダメというわけではなくて、なにか心理的な壁があるのだと思う。

【議長】 世代の違いというのは、その世代が育った時代背景や環境の違いとも考えられる。

【委員】 ギャップという言葉は、学校教育の現場では使い慣れているワード。「中1ギャップ」のように同じ義務教育課程の中でも小学校と中学校とで文化の違いがあり、そこで不登校が増えてしまうというような現象を指す。行政として「ギャップ」という言葉を使うことに若干の抵抗感もあるが、学校教育現場では割と定着している。

【議長】 ギャップを簡単に説明する一文を前につけてもいいのではないか。

【事務局】 「多様性」という文言は再考したい。内容については、異論はないか。また「②未来に向けた「つながり」のため」については、これまでの会議の中で大きく取り上げられた視点ではないので、記述すべきか悩んでいる。今ある活動がなくなってしまうのは残念なことだ、というようなご意見が時々出ていたため、その意見を反映した部分になる。これまでの会議の中では、「①多様性のある「つながり」のため」の方で述べた内容に関わる意見が多く出ていた。これを書くことで分かりにくくなってしまっているようであれば、削除してしまった方が良いかと考えている。

【議長】 私は、この記載はあった方が良いと考える。次世代につなげていくということも重要なことである。他にご意見が無ければ次に進みたい。「3-3 富士見市生涯学習推進基本計画から」と「4 提案「様々な世代を包む、ゆるやかな関係づくり」」についてはどうか。

【事務局】 これらの部分については、特にご指摘がなかったので変更はしていない。

【議長】 これまでの部分で、もしまたなにかご意見等あれば、事務局までご連絡いただきたい。では引き続き「5 具体的な取組の提案」について扱いたい。各委員から事前にご提出いただいたものが配布してある。簡単にご説明いただきたい。

【委員】 「散策クラブ」については、コロナ禍の中で始めた活動。2020年にコロナが始まって、色々な活動が全て中止になってしまった。家族と暮らしているものの、孤独感が大きかった。友達をなにかに誘うのも控えているような状況だった。そんな時に子ども教室を一緒にやっていた先輩のお母さんが、熟年学級自体は活動していなかったものの、参加している方達と散歩した時にすごくいいなと感じ、熟年学級にまだ入れない年代の人と、散策クラブを始めたそう。今は60代、70代の人とも一緒に、若い人はいないものの活動している。私はずっと子ども教室の活動に携わってきて、そこから人脈が広がり、町会や水谷東地域の活動に係わってきた。その中でお知り合いが増え、こういった活動にも声をかけてもらったので、よかったなと思った。50代は介護をしている人も多く、苦労話を共有したり、先輩のお母さんたちには話を聞いてもらっ

たり、お料理を教えてもらったり、散歩以外にもこの活動で楽しい話ができ、孤独感から少し抜け出すことができた。「地域とつながるおとなりフェス」については、広報「富士見」を読んでいたところ、たまたま見つけた。ZOOMには慣れていなかったが、挑戦してみようと思い、ZOOMで参加してみた。慣れていないということをお話したら、20分前から説明があり、スムーズに参加することができた。車が運転できなくてこういうものに参加できない、夜は外出できない、という場合もある。こういったZOOM等の活用により、誰でも参加しやすい環境を整えていくことも、これからはやはり必要なのだと感じた。内容については、高齢者だけでなく、若者の孤独も問題になってきており、地域でのつながりが重要であるというお話だった。また富士見市に住んでいる方の実践例の報告もあった。お一人はずっと富士見市に住んでいる方だったが、もう一人は富士見市に越してきたばかりの、30代の方の報告だった。お母さまが介護施設に勤めていた関係で、保育園児の頃から、その保育園のみんなで施設のクリスマス会に参加したり、小学生になってからもボランティアに参加したり、そういった活動に抵抗がなかったとのこと。富士見市に引っ越してきてからも、マッサージができる方なので、その技術を生かせるボランティアを探したり、ご自身の楽しみとしてゴスペルのグループに参加したりしているそう。近所の方とどうやってつながりを作るのかという問いに対して、まず挨拶をして、次に会話をしながらをつくったとのお答えだった。また小学6年生のお子さんがいらっしゃるようで、やはり子育てをしていく上では地域でのつながりは大切だとお話しされていた。自分が必要ないと思う時は、忙しくてそういった場には参加できないと思うので、そういったつながりを築くことは大切なんだよ、ということ、子どもの時から、挨拶だったり、人とのコミュニケーションだったりを通して、人とのつながりの大切さを伝えていくことが必要なのだと感じた。

【委員】 1つ目に、自分の携わっている活動を挙げさせてもらった。仲間をどうやって増やしていこうかと考えた時に、参加している子どもたちを仲間に入れていきたいと考えた。私たちの活動の名前を「地域コミュニティ食堂」としているが、所謂子ども食堂から派生した形を取っており、食べるのに困っている子どもたちや世帯を支えていきたいという思いがある。子どもたちに参加してもらって、なにかをしてもらうだけの立場ではなくて、自分たちも誰かのために活動する、というやり取りの機会としたいと考えており、そのために準備を進めている。この活動においても世代をこえていきたいと考えているので、事例として挙げた。2つ目については今回の感想。また、今回具体的な事例を考えるにあたって、様々なシンポジウムなどに参加した。その報告を共有したい。共通していたことがあり、1つ目は、私たちは活動を下の世代に引き継いでいくことばかりを考えていたが、下の世代にもしっかりと頑張っている人たちがいて、上の世代に相談することももちろんあるが、その逆もあるのだということを感じた。2つ目に、私たちの世代が活動するにあたって抱えている悩みは、下の世代の人も持っているということ。自分

たちで解決しようとしているように感じたが、それはもしかしたらアドバイスできることかもしれないし、同じようなことで悩んでいるのだなと感じた。またボランティア団体の交流会にも参加した。補助金を受けている団体が多く、活動が下火になってしまっていて、しかしやめるわけにもいかず、という団体がある一方で、そんな心配事は全くない、という団体もあった。その違いはなにか、考えた時に気付いたのは、社会から必要とされている度合いの違いもあるだろうが、広報も含め新しい人が次々と入ってくるような環境が整えられているかどうか、という違い。限られた仲間だけで頑張っているような団体は、今後に不安が多そうだと感じた。あくまで私個人の感想ではあるが、この場で共有できれば。

【議 長】 若い世代の方たちは、日常生活において社会教育活動や生涯学習活動と無縁な方が多いと思う。市内すべての公民館や交流センターで、生涯学習スタート講座のようなものを開催したらどうかと考えた。きっかけづくりの一つとして、こういったことに取り組んだらどうかと考えた。公民館や交流センターに行くきっかけをつくることが重要なのではないかと考えている。またこれは私も関わってきた活動であるが、市民学芸員制度の改革を考えたい。この制度は設立してから20年以上経過しており、登録している人数は増えている。しかし今一番危機感を持っているのは、中心的に活動してきた人たちが、高齢を理由に活動を引退していくということが、ここ数年で多くなってきているということ。今まで積み重ねてきたことのつながりがなくなってしまう。また登録は増えてはいるものの、登録者の世代の偏りが顕著に見られる。こういった現状を鑑みると、この制度について何らかの改革を行わないといけないのではないかと考えている。柔軟な資格制度や、若い世代を巻き込むことを念頭に置いた要領等の改正など、行政側と協働で進めていけないか。

【委 員】 私が住んでいる地域は、他の地域と比べて3世代で暮らしている世帯が多く、家族の在り方が密なご家庭が多いと感じている。また新しく越してくる方も多い。近くに大型商業施設であるららぽーと富士見ができたとはいえ、田畑が多く、交通も昔よりは便利になったが、市内の他の地域と比べたら、不便な部分も多いかもしれない。こういった地域を選んで住んでくれている人というのは、田舎や自然が好きな人が多いと感じている。私が住んでいる地域は、古くから住んでいる世帯が17世帯で、新しく越してきた世帯が50数世帯になる。若い人が多く、活気があって、こういった方達がこの地域で活躍してくれたらいいなと期待している。また私は子ども食堂の活動に携わっており、最初は年配の方達が多く食事を作るのも一苦労だったのだが、今は若い世代の方も少しずつ関心を持ってきて、手伝うまではいかないが、参加してくれるようになった。今とても期待している。あんまり期待しすぎて重荷にならないように気を付けているが、楽しく活動している。新しい世帯が越してくるということはこんなに希望が持てることなのかと思った。新しく越してきた方達から声をかけてもらったり、こちらから声をかけたり、とても

心が踊り、改めてとても良い地域だなと感じている。

【委員】 私も自分自身が携わっている子ども大学について取り上げた。当初は近隣の大学や、市内の各社会教育関係団体等から数名ずつ集まって実行委員会を組織し始めた。しかしやはり各団体から集まってくると、行かなければいけないという義務感を感じるようになってしまい、会議には参加するがあまり意見は出さず、実行委員会が形骸化してしまい、事務局主導で動いていた。しかしある時から、参加した子どもたちの保護者が参加してくれるようになった。毎年保護者に対するアンケートを取ると、何人かは実行委員として参加してもいいと言ってくれる保護者が出てくるようになった。そういった保護者の方も実行委員会に入ってもらったところ、さまざまな意見やアイデアが出てくるようになった。古くから関わってきた実行委員さんとは、そろそろ私たちは引退する時だよ、などと話していた。若い保護者の方達に任せていった方が良く思っていたが、実行委員会に参加していると、考え方の違いに気付いたり、私も学ぶことや気付かされることが多い。また参加した子どもがお手伝いをしてくれるようになった。色々な世代が集まり、とても楽しく活動出来ていた。コロナ禍で出来ていない状況ではあるが、そこに参加してくれていた子どもたちは、大人になった時にこういった社会活動に参加してくれるのではないだろうかと思っている。

【委員】 新規参入を促す取組の実例、中でも代表者の交代というところに注目して例を挙げた。公園管理などを行っているような団体になるが、世代交代するにあたって留意した点を3点挙げた。これは代表者の交代というだけでなく、世代をこえた新規参入を促していこうと考えた時にも、重要なことだと思う。透明性があることや、方法押し付けないということ、またオープンな雰囲気や組織であることは重要。反対に、世代交代がなかなかうまくいかないという団体については客観的に見ていると、仲間内だけで楽しくやってきた、という雰囲気が強く出ていて、オープンな雰囲気にはなっていない、というところが、なかなかうまくいかない要因ではないかと考えた。また今回のテーマで提言書をまとめるにあたり、他の自治体などの取組について押さえた上で、では富士見市としてはどうまとめるのか、改めて考えるために所謂先行研究にも目を通しておいてもよいのではないか。

【議長】 全体を通して質問等あれば伺いたい。

【事務局】 本日も欠席の委員よりお話を伺っている。提言の中で、子どもたちを巻き込んでいく必要性も述べている。小学校であれば、総合の時間で昔遊びをするときに地域の方に先生をお願いしたり、スクールガードリーダーを地域の方に担っていただいたり、地域とのつながりがある程度築けている。しかし中学校になると小学校と状況が全く異なる。中学校を拠点に、地域とのつながりを築いていけないか。また例えば中学生は職場体験として様々なお店や公共施設などにボランティアに行く。最初は中学校が窓口になるが、子どもたちが卒業してからも続けるために、例えば図書館などの公共施設と子どもたちが直接やりとりできるようになるとよいのではないか。そうすれば、子どもたちが地域と関わるきっかけ

になるのではないか。中学生に対して、人と関わる機会を作ってあげられないだろうか。また部活動の地域移行という話も昨今取り上げられるが、そこで地域の方や学校開放を利用しているスポーツ団体のみなさんと連携していけたらよいのではないか。以上のようなご意見を頂戴している。

【委員】 なにが課題か考えた時に、情報の活用が弱いということが挙げられるのではないかと考える。例えばオーストラリアでは電子決済が進んでおり、レストランに行っても紙のメニューがない。テーブルに二次元コードが書いてあり、それを読み込むとメニューも出てくるし、クレジットカード情報を登録して、そこで決済も完結する。同じことが日本でもできるかという、高齢の方などデジタルデバイスに慣れていない方もおり、難しい。日本はICTの活用がまだまだ遅れていると感じた。公民館での活動など、もう少しアピールの方法を変えていかないと、今後も厳しいのではないだろうか。今までのように市の広報紙などで広報することも大事ではあるが、例えばみなさんレストランなどに行くときに、事前にスマホなどで調べる方が多いのではないだろうか。事前に調べることで、ハードルが下がる。委員のみなさんもそれぞれご活動されていると思うが、その活動はとても魅力的な活動だと思う。しかし、他の人たちにとっては係る頻度が少ないので、参加に対するハードルが高くなってしまっているのではないかと思う。そのハードルを低くすることができれば、関心がある人は参加しやすくなるのではないかと思う。オーストラリアのパブに行った時、入り口で、スマホで情報を登録しないと入店できないと言われた。住所や郵便番号などすべて登録すると、二次元コードが発行され、それで入店することができた。こんなことをやっていたら、年配の方は誰も来ることができないのではないかと思ったが、店内を見てみると、ほとんどの方が私よりはるかに年上の方達だった。オーストラリアではそれが当たり前になっている。スマホを持ちながら情報を得て、ここに行ってみたい、参加してみたいと、社会教育活動においても思ってもらえることができれば、ハードルが下がり、動機付けにもなるのではないだろうか。また、京都の例で、放課後児童クラブに子どもが集まらない理由を調べたところ、役所の窓口に行かないと手続きが完了しないからというものがある。手続きをインターネットですべて完結するようにしたところ、参加する子どもの数が増えたという例がある。そういった、ICTの活用も視野に入れることができるとよいのではないかと感じた。

【議長】 今回みなさんから頂いた意見等について、事務局と相談の上でまとめていく。次回の会議でまたみなさんに確認いただきたい。4月と5月にそれぞれ1回ずつ会議を開催し、今期の活動は終了となる。今後の流れについて事務局から説明を。

【事務局】 みなさんから頂いた意見を基に、提言書としてまとめていく。次回の4月の会議でまたご確認いただきたい。そこでご意見をいただき修正を加えたものを、5月の会議にて最終確認いただきたい。5月の下旬に、完成した提言書を議長から教育長へご提出いただく予定。また、毎回提言

書の最後に、委員の感想を掲載させていただいている。今回も掲載したいと考えているので、みなさんから第33期の活動をとおしての感想をいただきたい。

【議長】 事前に事務局までご提出いただいても、4月会議の当日にお持ちいただいても、どちらでも構わない。第33期の社会教育委員会会議に対する感想でもいいし、テーマである世代をこえたつながりづくりについて議論してきた感想でもいいし、どのような視点であっても構わない。短い文章で構わないので、100字から150字程度でまとめていただければ。第33期も残すところあと2回となった。引き続き最後までご協力いただきたい。

4 その他

次回会議日程

令和5年度第1回会議

日程：令和5年4月10日（月）午後7時～

場所：中央図書館 視聴覚ホール